

小 学 校

平 成 14 年 度

# 教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

特 別 活 動

東 京 都 教 職 員 研 修 セ ン タ ー

平成14年度

教育研究員名簿（特別活動）

分科会	区市町村名	学 校 名	氏 名
低学年分科会	墨田	業平小学校	○森川康一
	品川	三木小学校	國美奈子
	荒川	ひぐらし小学校	渋谷律子
中学年分科会	新宿	落合第五小学校	出町桜一郎
	中野	桃園小学校	石川尚安
	杉並	永福小学校	星野桂
	練馬	仲町小学校	中村三絵
	葛飾	東金町小学校	○佐々木祝子
	江戸川	第二葛西小学校	関野直美
	小金井	小金井第四小学校	小尾明代
高学年分科会	大田	赤松小学校	齋藤隆雄
	世田谷	桜丘小学校	○田畠敏道
	江戸川	下小岩小学校	小林美知子
	八王子	宮上小学校	寺田理香
	武蔵村山	第十小学校	関根明美
	日の出	大久野小学校	大野貴子
	児童会分科会	豊島	大塚台小学校
足立		梅島小学校	佐野篤
調布		滝坂小学校	○山田京子
町田		南成瀬小学校	◎吉山郁代

◎全体世話人

○世話人

(担当)

東京都教職員研修センター 指導主事 寺田貞夫

# 目 次

I 研究の全体構想	2
1 主題設定の理由	2
2 児童の実態から	3
3 各分科会研究概要	4
II 低学年分科会	5
1 主題設定の理由	5
2 研究の視点	5
3 研究の手だて	6
4 実践を通して	8
資料 ; 「終末の助言」 例	9
III 中学年分科会	10
1 主題設定の理由	10
2 研究の視点	10
3 研究の手だて	12
4 実践を通して	14
IV 高学年分科会	15
1 主題設定の理由	15
2 アンケート調査の結果とその考察	15
3 研究構想	17
4 実践を通して	18
V 児童会分科会	20
1 主題設定の理由	20
2 研究構想図	21
3 研究内容と実践事例	22
4 実践を通して	23
VI 研究のまとめと今後の課題	24

## I 研究の全体構想

### 1 主題設定の理由

#### 研究主題

望ましい集団活動を通して自分たちの学校生活を楽しむ子どもを育てる指導法の工夫

今年度より新学習指導要領による教育課程が完全実施され、各学校では「ゆとり」の中で自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を基本として実践している。そして、特別活動では、教育課程審議会の答申における改善の基本方針として示された、特に好ましい人間関係の醸成、基本的なモラルや社会生活上のルールの習得、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的態度の育成、ガイダンス機能の充実などを重視する観点から、内容の改善を図ることとしている。

現在の児童は、価値観の多様化、少子化、社会環境の変化等により、自分一人で行動する傾向が強いと思われる。したがって、協力してひとつのことをやり遂げる経験が少ない。だからこそ、個々の児童に、友達と協力して自分たちの学校生活を楽しむような望ましい集団活動を展開させ、“なす事から学ぶ体験”を十分積ませていきたい。そして、協力して自分たちの思いや願いを実現させていく体験が必要であると考えた。

児童にとって「学校生活を楽しむ」とは、次のようにとらえた。

- ①自分が発揮できる・・・問題に関心をもち、「自分はこうしたいな。」という思いや考えが友達に伝えられる。
- ②認め合える・・・「その考えは、いいと思うよ。」「上手にできたね。」という友達のよい考えやがんばった姿が互いに見つけられる。
- ③協力できる・・・「みんなの意見がまとまったね。」「みんなとやると楽しいね。」という友達と一緒に何かをする。
- ④活動できる・・・「やってよかった。」「次は、あんなことをやってみたいな。」という活動に対する意欲がもてる。

これらは、人とかかわりながら生き生きと活動することをおして身に付くものである。そのことは同時に、自分たちの学級や学校を自分たちの力で充実・向上させていくことでもあるとも言える。そこで、望ましい集団生活を通して、児童が自ら問題を見つけ、解決していくまでの活動を友達と積極的にかかわりながら積み重ねていくことにより、より自分たちの学校生活を楽しむことができると考えた。

そこで、本部会では低・中・高・児童会の4分科会に分かれて研究する中で、各分科会とも振り返りを重視した。自己評価や相互評価をする場を児童の一連の活動の中に位置づけて、積み重ねていくこととした。また、教師の終末の助言を工夫し、児童が次の活動に生かしていけるような指導法に注目して研究主題に迫っていくことにした。

## 2 児童の実態から

研究を進めるにあたり、児童が学級活動や委員会活動についてどのような意識をもっているかについて調べるため、研究員の所属校において以下の設問で実態調査を行った。

\*実施時期：平成14年10月中旬 対象者：教育研究員所属校（20校）の児童

調査人数：556名（低学年81名、中学年221名、高学年128名、児童会126名）

回答方式：自由記述

### (1) 学級活動や委員会活動で「楽しいな。」と思うのはどんなときですか。

低学年	中学年	高学年	児童会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合って決まったとき</li> <li>・話し合っているとき</li> <li>・意見が言えたとき</li> <li>・係活動をしているとき</li> <li>・集会をしているとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会をしているとき</li> <li>・話し合い活動をしているとき</li> <li>・係活動をしているとき（友達の係がやっていることに参加しているときも含む）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会をしているとき</li> <li>・意見が言えたとき</li> <li>・係活動をしているとき</li> <li>・委員会の活動をしているとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員同士で協力できたとき</li> <li>・全校のみんなが楽しんでくれたとき</li> <li>・自分たちで計画して活動できたとき</li> <li>・先生や友達にほめられたとき</li> </ul>

#### 【設問1についての考察】

児童が「楽しさ」をどのように受け止めているかを知るための設問である。学級活動や委員会活動での楽しさを、児童はどの場面においても実感していることがわかった。話し合いでは、話し合ってみんなの意見がまとまった時に特に楽しさを感じている。これは、みんなの気持ちを大切に話し合うために、試行錯誤しながら活動し、集団決定することがいかに大切かを表している。集会に楽しさを感じているのも、みんなで活動することを楽しみ、達成感を味わっているからだと考える。また、話し合いの過程で、自分の思いや願いを生かした意見を言った時など、自分の力を発揮することにも楽しさを感じていることがわかる。こうした自分の思いや願いを生かして活動することを積み重ねていくことで、児童に自主的・実践的な態度が育っていくと考えられる。

### (2) 学級活動や委員会活動で、「みんなで活動してよかったな。」と思うのはどんなときですか。

低学年	中学年	高学年	児童会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見がまとまって、決まったとき</li> <li>・みんなで話し合っているとき</li> <li>・遊んでいるとき（集会をしているとき）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会をしているとき</li> <li>・意見がまとまって、決まったとき</li> <li>・意見がたくさん出て話し合いが進んだとき</li> <li>・係の仕事を協力してやっているとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力してできたとき</li> <li>・考えたことが成功したとき</li> <li>・話し合いをしているとき</li> <li>・ほめられたとき</li> <li>・集会をやって楽しかったとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校のみんなが喜んでくれたとき</li> <li>・協力してできたとき</li> <li>・仕事をやりとげたとき</li> <li>・役に立てたとき</li> <li>・先生や友達にほめられたとき</li> </ul>

#### 【設問2についての考察】

友達とのかかわりについての設問である。児童が友達とのかかわりに喜びを感じるのは、みんなで協力して活動できた時であることがわかった。つまり、同じ目標に向かって、一人一人が友達の気持ちを大切にしながら活動している時のことを指していると考えられる。よりよい集団決定や集会活動を目指して、互いのよさを認め合いながら活動することで友達とのかかわりを深め、所属感や連帯感が深まっていくと言える。「みんなで」という気持ちをもって活動することの大切さがわかる結果である。

3 各分科会研究概要

	低学年	中学年	高学年	児童会
全体研究主題	望ましい集団活動を通して、自分たちの学校生活を楽しむ子どもを育てる指導法の工夫			
分科会主題	自分たちでつくる学級活動 －児童の気付きを大切に する指導を通して－	かかわり合いを楽しみ、 進んで取り組む学級活 動 －一次の活動につながる 振り返りを重視して－	自分らしさを発揮し、互 いに認め合い高め合う学 級活動 －自己評価・相互評価を 通して－	自ら進んで取り組み、学 校の一員としての満足感 がもてる児童会活動
研究の仮説	試行錯誤を通して生 まれる児童の気付 きを生かす適切な 指導をすれば、自分 たちで問題を解決し ようとする自主的・ 実践的な態度を育 てることができるだ ろう	振り返りによって児童の ありのままの思いを引き 出し、一人一人の願いや 気付きを学級に広げれ ば、かかわり合いを楽し み進んで学級活動に取 り組む児童が育つであ らう	自分らしさを発揮し、学 校生活における問題を 解決していこうとする活 動の中で、お互いに認め 合うことを積み重ねてい けば、満足感、成就感を 味わい、高め合う学級集 団になるだろう	児童会活動における実 践意欲を高める指導法 を工夫し、児童が充実感 をもつように評価を工夫 していけば、自ら進んで 取り組み、学校の一員と しての満足感がもてる児 童会活動となるであろう
研究の視点	○児童の「気付き」 を今後の活動に生 かす指導の工夫 (1) 児童の活動を 記録する (2) 振り返る場を設 定する (3) 適切な終末の 助言をする (4) 気付きをカード 化する	○ありのままの振り返り の中にある児童の願い や気付きをこれからの活 動に生かす工夫 (1) 「気付き」の共有 (2) メッセージカード (3) ファイリングの活用 (4) 計画委員会での活 用	○互いに理解し、よさを 認め合う工夫 (1) 相互評価、自己評価 の場の工夫 (2) 教師の働きかけの工 夫 ○自分たちの問題を解 決する活動を積み重ね る工夫「事前－話し合い －活動－振り返り－認め 合い」 (1) 問題の共有化 (2) 活動の振り返り	○実践意欲を高める工 夫 (1) 児童の思いや願いを 生かした活動計画 (2) 委員会広報活動の 充実 (3) 事前指導の充実 (4) 満足感につながる事 後指導 ○評価の工夫 (1) 自己評価「委員会活 動振り返りカード」 (2) 相互評価「学級で活 動状況を報告する」 「ありがとう＆お願い カード」

## Ⅱ 低学年分科会

### 分科会主題

#### 自分たちでつくる学級活動 —児童の「気付き」を大切にす指導を通して—

### 1 主題設定の理由

学級活動では、自発的、自治的な活動を一層活発に行うことが重視されてきている。この自発的、自治的な活動を活発に展開していくことは、学級生活を自分たちの力で楽しく、充実したものにしていく児童を育てる上でとても大切である。

低学年の児童は、素直に自分の思いを伝え合い、周りの友達と楽しく遊ぶことができる。一方、友達とかかわる中で、言葉が足りなくて誤解が生じることも多い。けれども、すぐ互いに声を掛け合って、仲直りできるのが低学年の児童のよきでもある。また、低学年の児童は発想が柔軟で、教師の予想を超えた活動をするのがよく見られる。そして、教師に褒められたり、友達に認められたりすることで、児童の活動に対する意欲がより高まっていく。低学年の時期は、能力が未発達であり、義務教育の入門期という観点から、多くの教師は教えることに重点を置きがちである。しかし、この時期こそ、児童の自発的、自治的な活動を促す指導を教師が意識して行っていくことによって、友達同士のかかわりが深まり、児童にすすんで活動しようとする意欲や態度が育っていくのである。

そこで、この研究を進めていくに当たり、本分科会では教師の適切な指導のもとで、児童が自分たちの力で学級活動をつくっていくことが重要であると考えた。この「自分たちでつくる」とは、児童が試行錯誤しながら、自分たちの思いや願いをみんなで実現していくことであるととらえた。そして、活動を通して生まれる児童の「気付き」を大切にしていくことこそが教師の適切な指導であり、児童の自発的、自治的な活動を活発にするための最も効果的な指導であるにとらえたのである。

以上のような考えから、分科会主題を“自分たちでつくる学級活動—児童の「気付き」を大切にす指導を通して—”と設定した。

### 2 研究の視点

#### 視点

#### 児童の「気付き」を今後の活動に生かす指導の工夫

#### 児童の「気付き」

- ・みんながいいよって言ったことをやる。
- ・〇〇さんがゆずってくれた。
- ・司会に指された人だけが話す。
- ・意見を黒板に書いたらいいんじゃない。
- ・順番にやればいいんだよ。

#### ☆「気付き」を生かすとは…

教師が、活動を通して生まれた児童の気付きを価値付けたり、意識付けたりして、気付きを学級全体に広げていくこと

### 3 研究の手だて

活動の流れの例 必要に応じて、話し合いの時間や内容の確認などをする。

0分

先生の話  
-----  
児童の活動  
話し合いや集会等  
手だて(1)  
-----  
終末の助言  
手だて(2)  
手だて(3)

#### 手だて(1) 児童の活動を記録する

- ◎適切な終末の助言をするための具体的な事実をつかむ。
- 児童の発言や行動等の記録をできるだけ詳細に取る。教師が大切だと思ったところにアンダーラインを引く。自治的な活動の範囲内では、助言を控える。

#### 手だて(2) 振り返る場を設定する

##### ① 児童自身が活動を振り返る

- ◎自分や友達の活動を見つめ直す。
- 話し合いや集会を通して思ったことを振り返りカードに書かせる。



##### ② 振り返りを積み重ねる

- ◎自分や自分たちの成長について考える。
- 振り返りカードをファイルし、それを見返して感想を書く。(活動内容(2)として取り上げる)

##### ③ 児童の振り返りをまとめる

- ◎児童一人一人の成長や課題を教師がつかみ、助言等に生かす。
- 振り返りカードに書かれた内容を一覧表に書き写す。

#### 手だて(3) 適切な終末の助言をする

- ◎気づきを価値付けたり、意識付けたりして活動に生かせるようにする。
- 特別活動の目標及び学級会の進め方にかかわることについて、活動の記録や振り返りカードをもとにして、よかったことを中心に助言する。その際、児童と共に具体的な場面を思い出しながら助言していく。課題を投げかける場合は、内容を絞って伝える。

《助言の仕方》 資料(P9) 参照

- ア 褒める…学級全体に定着させたいと考えた具体的な児童の言動を取り上げ、賞賛する。
- イ 問いかける…活動の過程で見られたポイントとなる言動について聞き返し、気持ちを尋ねたり、質問したりして児童が考えるきっかけをつくる。
- ウ 種をまく…今後乗り越えてほしい課題を投げかけたり(素地づくり)他の学校や学級の情報を与えたりする。

#### 手だて(4) 気づきをカード化する

…事後の指導

- ◎児童の気づきを学級全体に意識付ける
- 一つの気づきを1枚のカード(気づきカード)に記入する。通し番号、日付なども書く。カードは教室内に掲示する。

45分

※◎は手だてのねらい、○は具体的な方法



【振り返りカード】 手だて(2)①

12/10(火) ニコニコかいきをふりかえって  
 名まえ」  
 しかにこんでくほんさんは、う  
 りくがんばつていしました。でも  
 「かかすかきませんでした。  
 めたしは、かきのめのでまうくたふ  
 したまふ。」「と思ひました。でも  
 こまらひだは、かかるとは、ました。  
 た。

終末の助言で...

「今日の司会さんはみんなの意見をよく聞きながらみんながいいと思うことに決まるように頑張っていたね。〇〇さんも振り返りカードにこんなふうに書いていたよ。(カードを読み上げる)」



【振り返りの積み重ね】 手だて(2)②

12/3(火) 今までをふりかえって  
 名まえ」  
 ニコニコかいきが、あ  
 りこめたした、かあ  
 もらました。さいは、あまり  
 りゆうと、かたかた、うど、あ  
 かたで、さきて、りゆうは、あ、あ  
 あった、ぼうが、あ、あ、あ、あ  
 ようになつて、よかつた、あ、あ。

「理由をつけて自分の意見を詳しく伝える事ができるようになってきたんだね。」



【振り返りの一覧表】 手だて(2)③

名前	10/9(木) <話し会> T-1の話し会、みんなと何話したか。	12/15 T-1の話し会、みんなと何話したか。
	話し会、みんなと何話したか。	話し会、みんなと何話したか。
	話し会、みんなと何話したか。	話し会、みんなと何話したか。
	話し会、みんなと何話したか。	話し会、みんなと何話したか。
	話し会、みんなと何話したか。	話し会、みんなと何話したか。
	話し会、みんなと何話したか。	話し会、みんなと何話したか。

【気づきカードの掲示】 手だて(4)

またよんで、あひびをよほろうよ。  
 かみにかいておくといひ。  
 (なのほ) どうですか。  
 なん二かあったほうがいいよ。  
 まず、せつめいたよ。  
 このなかの(どれかに) どうやってきめるかだよ。  
 (おまかせ) どうですか。  
 つければいいよ。

## 4 実践を通して

### 【成 果】

- (1) 活動記録を詳細にとったことにより、話し合い（集会）活動の流れや児童の気づきが把握でき、それを終末の助言に生かすことができた。
- (2) 活動の終末に、児童に振り返りを自由記述で書かせたことにより、児童の率直な思いをつかむことができた。また、振り返りを続けることで、児童に自分や友達のよいところを積極的に見つけようとする姿勢が育ってきた。
- (3) 児童と共に活動を振り返りながら具体的に助言したことにより、よさや今後の課題に気付かせることができ、それを学級全体で共有させることができた。また、褒めることを中心に助言したことで、児童の意欲を高めることができた。あわせて、助言の例を表にしたことで、助言をする上での投げかけ方や取り上げる観点を整理することができ、終末の助言に生かすことができた。
- (4) 気づきカードを教室に掲示したことで、児童に気づきを意識付けることができた。

### 【課 題】

- (1) より効果的で、効率的な活動記録の取り方を探っていききたい。
- (2) 児童の振り返りの変容を把握して、一人一人の成長をよりの確につかんでいけるようにしたい。
- (3) その時間のポイントを的確に押さえた助言ができるように、助言の内容や仕方を深めていききたい。
- (4) 児童に、自分たちで学級活動をつくってるんだという意識が高まるような気づきカードの活用の仕方を探っていききたい。

特別活動はもちろんのこと、各教科・道徳など、教育活動全体での日常的な取り組みが学級活動の実践に生きてくる。

<例>

#### ○学級活動 活動内容(2)

… 希望や目標をもって生きる態度の形成

#### ○学校行事

… 活動の過程を大切にしながら、主体的に取り組む経験

#### ○朝の会・帰りの会

… 司会の経験、振り返る経験

#### ○国語 … 話す、聞く能力

#### ○体育 … 運動遊びの経験

#### ○生活 … 思いや願いをもち、話し合い、実行していく経験

など

～学級目標・個人のめあての振り返り～

12/13	12/12	12/11	12/10	12/9	12/8	12/7
きん	もく	すい	か	げつ	きん	もく
<p>★がこころのめあてを振り返る（よめえ）</p> <p>★がこころのめあてを振り返る（よめえ）</p>						

じぶんの「めあて」を振り返りかえろう！  
 (よめえ)

## 資料 「終末の助言」例

◎指導に役立てるため、助言の例を整理して分類を試みた。助言は、完全に分類しきれものではない。同じ助言であっても児童の活動の様子や、教師が取り上げた観点によっては分類が変わってくる。表には、助言する際の留意点もあわせて記した。

助言の仕方	ア 褒める	イ 問いかける	ウ 種をまく (素地づくり)
助言の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○助言は、褒めることを中心にまとめる。</li> <li>○児童に共感する教師の姿勢を大切にす。</li> <li>○事実をもとに、名前を挙げて具体的に伝える。</li> <li>○以前に投げかけた課題が一人でもできていたら、その時間に取り上げる。</li> <li>○今後定着させたいことに気付いた言動を取り上げ、その芽を意識付ける。</li> <li>○成長が見られた児童を見逃さないようにする。</li> <li>○目立たないところで活躍していた児童を特に取り上げる。</li> <li>○自分らしい表現方法で褒めるようにする。</li> <li>○褒め忘れた場合は、翌日以降でも朝・帰りの会などで伝える。</li> <li>○司会グループを褒める。</li> <li>○次の時間への期待を伝えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○助言が児童の活動を強制的に方向付けないようにする。ただし、教師は児童の活動に対して見通しをもっておくことが必要である。</li> <li>○活動を思い出しながら気付かせるようにし、どうしたらいいかを児童に考えさせるようにする。</li> <li>○教師自身が話し合いで分からなかったことや聞きたいことも率直に質問する。</li> <li>○問いかけてみて、児童が気付かないようであれば、時期が来るまで待つようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よりよい解決ができるような工夫を促す。</li> <li>○「～してみたら。」という教師の必要感からではなく、児童が自分たちで決定できるようにする。</li> <li>○児童にとって未経験なもので、今後の活動に広がりが出るような事柄について情報を提供する。</li> </ul>
特別活動の目標にかかわること	<p>① 心身との調和と発達の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『「多数決はやだよ。」と自信をもって自分の意見を言えたところが、とても素敵だね。』【①②④】</li> <li>・「Aさんは司会さんがなんて言っていていかわからず困っている時に、『頑張ってる。』と応援してあげていました。困っている人の気持ちを考えられるAさんの言葉がとても嬉しかったです。」【①②③】</li> <li>・「今日先生が一番にほめたいのは、Aさんです。初めて学級会で意見を言ったんだよ。みんな知ってた？みんなの前で意見を言うのって勇気がいるよね。」【①②④】</li> </ul> <p>② 個性の伸長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「司会のAさんが、『同じ人ばかりじゃなくて、まだ意見を言っていない人を指そうよ。』とっていました。友達のことを大切にしているからこそ言えたんだよ。」【③】</li> </ul> <p>③ 社会性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今日素敵だったのは司会の人です。自分から前に出てきて学級会を始めたんだよ。責任感があるね。」【③④】</li> <li>・『「これじゃあ、楽しいクラスとか頑張るクラスにならないよ。」と学級目標のことを考えていたAさんの発言がとても素敵でした。』【③】</li> <li>・「この前決まった集会の準備を声を掛け合って休み時間に進めている係がありました。立派ですね。そのおかげで、たくさん遊べたよね。」【④】</li> <li>・「どんな新聞記事を書いて欲しいかを知るために自分たちでアンケートを作ったんだって。すごい工夫だね。」【④】</li> <li>・「やっとな決まったね。先生もとても嬉しいです。よく嫌な人がでないようにみんなで話し合って決められたね。すごいね。」【①③④】</li> <li>・「振り返りでは友達のいいところをたくさん見つけられるようになってきたね。これも成長した証拠だね。」【①②③④】</li> </ul> <p>④ 自主的・実践的な態度の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いいところを出し合って話し合うのと、悪いところを出し合って話し合うのとどちらが話し合っていて気持ちがいいですか。Aさんどう思う？」【①③】</li> <li>・「振り返りで『黒板が見やすかった。』って振り返りに書いてた人がいたけど、どんなところがみやすかったの？先生に教えてください。」【②】</li> <li>・「Aさんは、最後に、何でその役をゆずってくれたんですか。」【③】</li> <li>・『「協力してやろうよ。」と言っている人がいたけど、どうしたら協力していることになるかな？」【③】</li> <li>・「学級会は、『みんなで話し合って、みんなで決めて、みんなでやる時間』だったよね。今日は、みんなで話し合えたの？」【①③④】</li> <li>・「みんなが自分の係を進んでやったので、スムーズに集会を始めることができました。この前の集会のように始めるのに20分もかかったのと比べてどう思った？」【④】</li> <li>・「友達が意見を言ってる途中で自分の意見を言ってる人がいたけど、その時Aさんはどう思った？」【①③】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生が昨日行ってきたクラスの子はね、みんながやれるように休み時間に得意な子がやり方を友達に教えてあげてるんだって。とても優しいね。」【①②③④】</li> <li>・「自分の得意なことを生かしてできるっていいね。どんな係が必要かな？何か工夫できるかな？」【②④】</li> <li>・「やっとな決まったね。次の集会までに、どんなことをしておけばいいかな？みんなで協力して楽しい集会ができるといいね。」【③④】</li> <li>・「1組には、折り紙係というのがあるって、教室の中を自分たちが作ったもので飾ってるんだよ。」【④】</li> <li>・「学級会をすぐに始めると話し合う時間がたくさんとれるね。何か工夫できるかな。」【④】</li> </ul>
学級会の進め方にかかわること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Aさんは、どうしてドッジボールがやりたいかをわけを話しながら意見を言っていました。とてもわかりやすかったですね。」</li> <li>・『「あと10分しかないよ。」とAさんが言っていました。いつも時間を気にしながら話していてえらいね。大切なことだね。」</li> <li>・「この前の集会は、誰が進めているか全然わからなかったけど、今日は日直さんが司会役になって上手に進めることができました。集会も進める人がいるとうまく進んだね。また一つ発見したね。」</li> <li>・「最後に、Aさんが『（ドッジボールをやるのが）嫌な人はいませんか？これに決めていいですか？』と確かめていたところがよかったです。また一つ1年2組の学級会が進化したね。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「多数決で決めてたけど、自分の出した意見がすぐに黒板から消されてしまったAさんはどう思いましたか？」</li> <li>・「一人しか司会がいなくて黒板に書いたり、手を挙げている人を指したりと忙しそうだったけど、どうしたらいいかな？」</li> <li>・「何のためにこの議題で話し合うの？先生に教えてください。」</li> <li>・「話し合いがおかしくなっちゃったのは、どこからかな？わかる人いる？」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「他の学校の例を紹介するね。最初に司会の人『今日話し合うことは〇〇です。』って言ってから話し合ってたよ。だから、何を話し合っているのがみんなよく分かってたよ。」</li> <li>・「嫌な人がでないようにするにはどうしたらいいかなあ？何か工夫できないかな。」</li> </ul>

### Ⅲ 中学年分科会

分科会主題

かかわり合いを楽しみ、進んで取り組む学級活動

—次の活動につながる振り返りを重視して—

#### 1 主題設定の理由

児童の生活状況を見ると、生活体験や自然体験が少なくなり、友達との人間関係や他人とのかかわりについても、自分から積極的に働きかけることを避ける傾向が見られる。さらに生活環境に目を向けると、孤食をはじめとする「生活の孤化」（文部科学白書 13 年度）の傾向が年々増加し、家族とのかかわりをもてずに生活する状況が生まれてきている。

本分科会では、児童のかかわり合いが休み時間に多く見られると考え、実態調査を行った。その結果、休み時間には多くの児童がドッジボールやおにごっこなど集団での遊びを望んでいる（図 1）にもかかわらず、中には絵をかくなどして、一人で過ごす児童もいる。（図 2）これは、自分の属する集団が、ありのままの自分を温かく受け入れてくれないと感じていることも影響しているものと考えられる。

従って、学校では、学校教育全体を通して、人とかかわりをもたずに生活する傾向を緩和し、人とかかわり合う楽しさや、集団で活動する喜びを味わうことのできる児童を育てることが課題と言える。そのためには、日々の学級活動で振り返りを次の活動に生かすことが重要であると考えた。児童は、活動の振り返りを行う中で、自分や友達によさに気付いたり、自分や学級の成長を自覚したりすることができる。そのことが次の活動に生かされれば、次の活動がさらに高められていく。これら一連の活動を積み重ねることによって、児童相互のかかわり合いがより深まり、意欲的に活動に取り組む児童が育つと考えた。そこで、研究主題を「かかわり合いを楽しみ、進んで取り組む学級活動—次の活動につながる振り返りを重視して—」と設定した。

図1 休み時間にしたい遊び

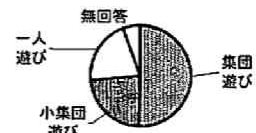
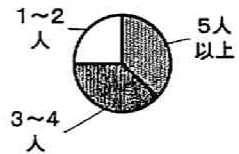


図2 学校で遊ぶ人数



対 象：3・4年生 397人  
実施日：平成 14 年 9 月

#### 2 研究の視点

##### 【研究主題に迫るための仮説】

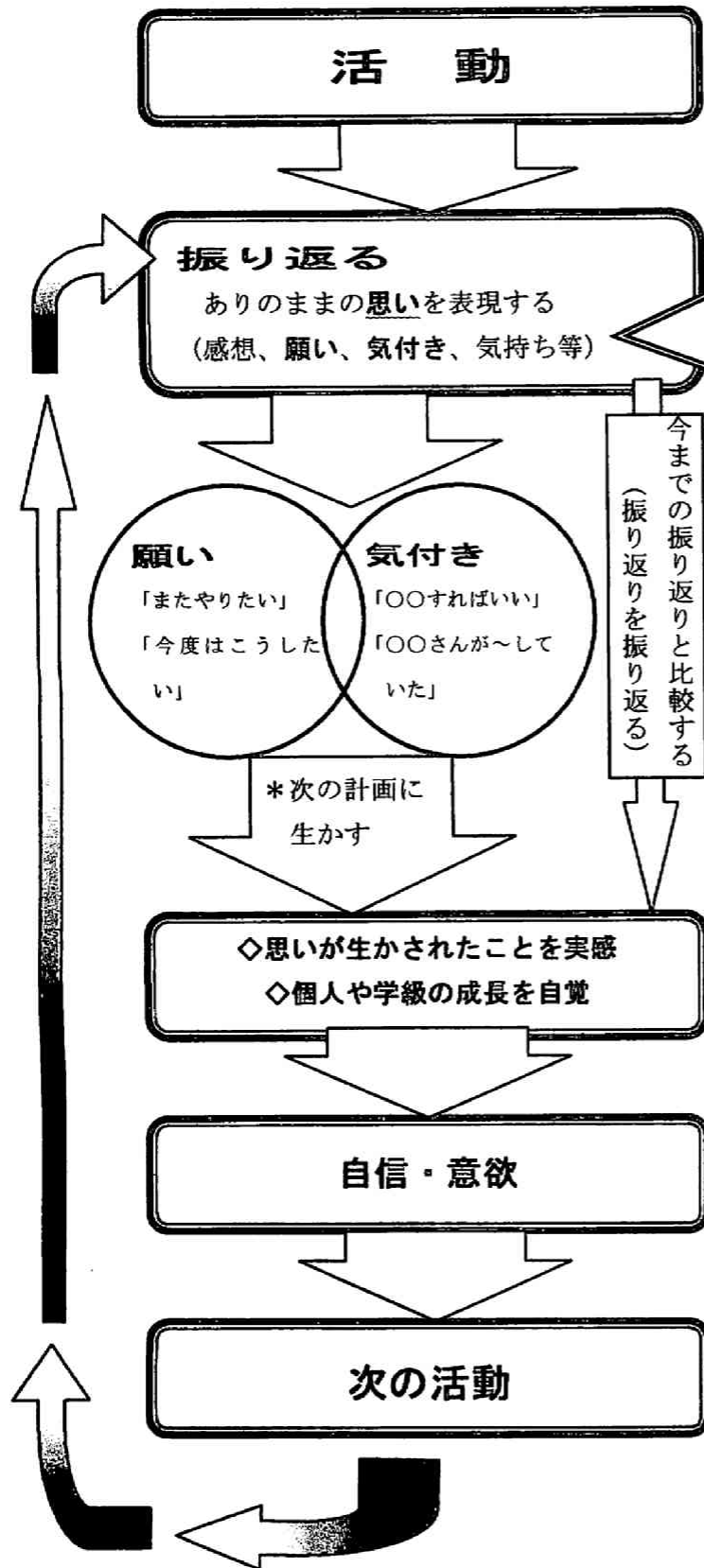
「振り返りによって児童のありのままの思いを引き出し、一人一人の願いや気付きを学級に広げれば、かかわり合いを楽しみ、進んで学級活動に取り組む児童が育つであろう」

##### 【研究の視点】

「ありのままの振り返りの中にある児童の願いや気付きをこれからの活動に生かす工夫」

振り返りすること	【児童にとって】	【教師にとって】
	*自分の考えを、文字や言葉にすることで確認できるもの	*児童理解のためのもの
	*自分のよさや成長に気付くことにつながるもの	
	*互いの思いや願い、よさに気付くことができるもの	
*次の活動への意欲につながるもの		

# 振り返りの流れ



## ◇教師のかかわり(構え)◇

- \* 児童の思いを全て受け入れる (できる・できないの判断をするのではない)
- \* 児童の思いの分析をする
- \* 児童の思いに共感する
- \* 安心感を与える助言やコメントをする
- \* 学級の実態に応じた振り返りカード (記述式、記号化式など) を使う

## ◇教師の手だて◇

- 個人や学級に生かしたいものを取り上げ、広げる
- \* 「気付き」の共有
- \* メッセージカード
- \* ファイリングの活用
- \* 計画委員会での活用

これらの流れを積み重ねることで、かかわり合いを楽しみ、進んで活動する児童が育つと考えた。

### 3 研究の手だて

#### (1) 「気付き」の共有

##### ア ねらい

一人の「気付き」を学級全体に広げ、次の活動に生かす。

##### イ 実践例

児童の振り返りを、終末の助言で取り上げるだけでなく、その中から、児童が学級の問題を解決していくのに役立つ、学級の成長につながる「気付き」を取り上げ、あらためて話し合う場を設けた。

〔気付き〕

- ① 特別活動の目標に迫るもの（学級全員を大切にする気持ち・社会性・自主性など）
- ② 学級会（話し合いの活動・集会の活動）の運営に役立つもの

みんなの「振り返りカード」より 植1日 10月31日(木)3校時	
第18回学級会「チームの決め方」	
思ったこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 夜まってよかった。とってもうれしい。可憐さんありがとう。</li><li>・ とっても楽しんだ。よかった。うれしい。</li><li>・ FさんとYさんが かわってくれてよかった。</li><li>・ もうちょっとで、全部決まりそうだった。</li><li>・ 早くやりたいから、議ってほしい。</li><li>・ Fさんが、いっぱい意見をいっていた。</li><li>・ みんな本当にキックベースをやりたいのか。</li><li>・ もう少し静かにしてほしい。</li><li>・ 自分たちが可憐グループのときは、スムーズに進まなくてよかった。</li><li>・ ※「一人のためにやるの。」といっている人がいた。〇〇さんはクラスの一人なのに。</li><li>・ Yさんの決め方が上手で良かった。がんばった。</li></ul>
のきかた	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 植さんが、20分以内にしっかりと黒板に書いてた。</li><li>・ 思板は、もうちょっと大きな字で書いてほしい。</li></ul>

①の「気付き」であるにとらえた※印の意見を全体に投げかけ、考えを出させた。

※「一人のためにやるの。」といっている人がいた。〇〇さんはクラスの一人なのに。

- ・ 一人のためでも、クラスの人が納得するような決め方がいい。
- ・ その人が納得して、みんなも納得してくれて、早くキックベースができるように考える。
- ・ みんながいるからこそクラスなのだと思う。
- ・ みんなで楽しくやるために話し合っている。一人でも抜けたらみんなじゃない。

児童の振り返りカードから全員の思いをまとめたもの。実際には、児童の名前を入れた。

教師が、よい「気付き」であることを話すこともあるが、「〇〇さんが、こんなことを書いていました。みなさんはどう思いますか。」と児童に考えさせ、児童の言葉でその価値を見つけれられたほうが、より学級全体に広がった。また、取り上げられた児童は、今まで漠然と考えていたことがはっきりと確認でき、自分の成長を自覚できるとともに、次なる課題をもつこともできた。

#### (2) メッセージカード

##### ア ねらい

友達のよさを認め合うことを通して、次の活動への意欲を高める。

##### イ 実践例

集会終了後、クラス全員がメッセージカード（よかった点や改善点を自由筆記の形で記入）を書き、集会の担当者に贈った。これは、集会担当者への応援メッセージであるとともに、児童自身や学級全体の振り返りとなっている。メッセージカードは一定期間掲示し、その後は集会担当者がまとめ、次の活動計画の参考資料として活用した。



<サッカー大会>

ありがとうございます。いつもとルールやゴールの場所をいふはなすよかったです。ありがとうございました。

よかったこと  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。

よかったこと  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。

<サッカー大会のまとめ>

よかったこと  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。

よかったこと  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。

よかったこと  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。

<サッカー大会2回目>

よかったこと  
前よりのしくできた。  
なんとかけられた。  
おいしかった言わなかった。

よかったこと  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。

よかったこと  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。  
みんなよくがんばったこと。

最初のサッカー大会は不満や文句が多かったが、メッセージカードから何が足りなかったかを集会を担当した児童と教師で話し合い、学級全体に伝えた。そこから、サッカーの苦手な児童の思いや、ルールをみんなできちんと話し合うことの大切さが分かり、2回目のサッカー大会の計画を考えた。

2回目のサッカー大会は、工夫のある計画で皆を楽しませることができ、担当した児童は満足感・達成感を味わうことができた。

(3) ファイリングの活用

ア ねらい

児童が今までの振り返りを見直すことで、自分自身や学級の成長に気付かせ新たな課題をもたせる。

イ 実践例

児童が個人で振り返りカード等をファイリングしていつでも見られるようにした。そして、それを見直し今後の活動に役立てるよう助言した。また、活動内容(2)の時間を使い、今までの振り返りから自分自身や学級の成長に気付かせた。

その結果、児童から次の活動に今までの振り返りを生かそうとする態度が見られるようになり、新たな課題にも気付くようになった。学級の実態に応じた活用方法や活用のタイミングについては今後検討していきたい。

・学級の成長に気付いた例

<4月の学級への願いの作文><11月の振り返りの作文>

4年1組をこんなクラスにしたいな  
このたび、4年1組をたんにんにすることに  
なりました。です。  
はこのクラスをこのようにしたいです。  
まずはじめに  
はくはくして行くとか、あんなに楽しかった  
あんなに楽しかったあんなに楽しかった  
あんなに楽しかったあんなに楽しかった  
あんなに楽しかったあんなに楽しかった

4年1組のせいせい  
はくはくして行くとか、あんなに楽しかった  
あんなに楽しかったあんなに楽しかった  
あんなに楽しかったあんなに楽しかった  
あんなに楽しかったあんなに楽しかった  
あんなに楽しかったあんなに楽しかった

・自分の課題に気付いた例

<自己評価に関する作文>

振り返りカード  
はくはくして行くとか、あんなに楽しかった  
あんなに楽しかったあんなに楽しかった  
あんなに楽しかったあんなに楽しかった  
あんなに楽しかったあんなに楽しかった  
あんなに楽しかったあんなに楽しかった

(4) 計画委員会での活用

ア ねらい

活動を高めていくために、今までの振り返りを話し合いの計画に生かす。

イ 実践例

話し合い活動での振り返りから、児童が成果や課題を見つけ、課題については改善策を計画に盛り込んでいった。その結果、児童は話し合いの見通しをもち進んで活動に取り組んだ。

<事例1>

話し合いを円滑に進めるための記述を計画委員会に提示し、助言した。それを生かして、事前にアンケートを行い、意見を集約して話し合いの準備を進めた。その結果、的を絞った話し合いができた。

振り返りカードの記述

意見がたくさ〜んで話し  
あいに、時間がかかりました  
のでアンケートをとって  
みなさんの意見をまとめて  
あげたい

振り返りを生かした計画

何をやりた〜か、  
アンケート結果

ゲーム  
しょうぎ  
あざむき  
ポイ  
ビンゴ  
オセロ

スホーリ  
コーンバス  
なわとび  
テニス  
ドッジボール  
ホッポ  
じゅうなん

<事例2>

今日の話し合いの感想や気づいたこと  
書こう  
近頃の友達と話し合っていたのが  
私をいけんにしてやべたぼうがい  
と思う。

課題を見つけさせるために、児童全員の振り返りカードを提示した。児童は友達の振り返りから課題を見つけた。

学級会カードに「おねがい」として盛り込み、それが話し合いのめあてとなった。

おねがい  
かきこしあへないで手をあげていてください。  
Cでね、△ありでさ〜めた、Xでさ〜めた  
です。

4 実践を通して

(1) 成果

- ① 児童の気づきを学級全体で共有するための場を設けたり、振り返りの蓄積を活用したりする実践を通して、自分や学級の成長を自覚し、自信をもって意欲的に活動する児童が増えてきている。また、自分たちの力で活動を高めていこうと工夫する姿が見られるようになり、進んで取り組む児童も増えてきている。課題を見つける目や、解決方法を見いだす力も育ちつつある。
- ② よさを認め合う活動を通して、豊かなかかわり合いが生まれ、次への活動意欲が高まった。
- ③ 振り返りを生かすためのさまざまな実践を積み重ねてきたことにより、児童は自分たちの願いや気づきが活かされたことで満足感を得ることができ、それが自信となって、進んで活動に取り組む姿が見られるようになった。

(2) 課題

- ① カードの記述に願いや気づきが十分表れていない児童への、個別の聞き取りの仕方や助言の研究。
- ② 児童自らがかかわり合いの中で課題に気づき、解決方法を考えられるようにするための、適切な助言の在り方についての研究。
- ③ 振り返りによって深めた児童理解を評価に生かす研究。



## IV 高学年分科会

### 分科会主題

自分らしさを発揮し、互いに認め合い、高め合う学級活動

自己評価、相互評価を通して

### 1 主題設定の理由

新学習指導要領は、子どもたちの「生きる力」の育成を重視し、特別活動もその中で、「集団の一員としての自覚」「豊かな人間性」「社会性」の育成をそのねらいとしている。その背景には現代社会が抱える「自己中心主義」「直接経験不足」「少子化」などの問題がある。特別活動における高学年の児童の様子を見ても、「自分に自信がない」「主体性にかける」「人と関わるのが苦手」などの傾向がある。

このような中で特別活動のねらいを達成するためには、まず、学級において、「子どもたちが、自分らしさを発揮でき、互いに認め合うことのできる『望ましい集団』」を形成する必要があると考えた。高学年の子どもたちは、教師の適切な指導や助言を受け、少しずつ自分たちで組織的、計画的な集団活動ができるようになってくる。また、自分のクラスにとどまらず、上級生としての立場から、全校的な視野で考えることができる児童も増えてくる。

このような発達段階から考えて、『望ましい集団活動』すなわちお互いの考えを尊重し合い、抵抗なく意見が言え、協力して実践できる活動を通して、子どもたちは継続的な自己評価、相互評価を行うことが大切だと考えた。また、これらの評価を積み重ね、共有化していくことで一層「自信をもち」「自分らしさを発揮し」「意欲をもって表現行動できる」ようになる。そして、やがて一人一人の成就感や達成感からクラス全体の成就感や達成感につながっていくと考えた。

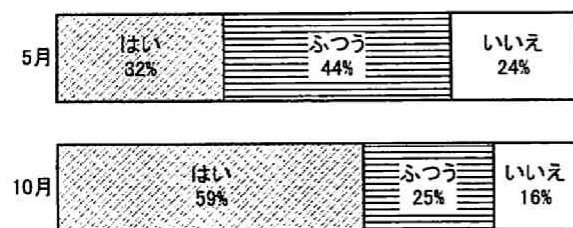
また、教師の終末の助言、子どもたちの自己評価、相互評価の経過観察、記録分析、等を適切に行うことで、子どもたちのめあてが一層はっきりし、一人一人が個人の成長や可能性を見つめることができるようになる。自分たちの問題を共有化し、解決していく活動を積み重ねることで、更に相互に高め合う学級集団作りにつながると考え、分科会の主題を上記のように設定した。

### 2 アンケート調査の結果とその考察

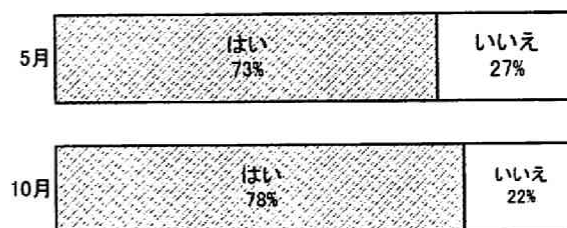
児童が学級活動について、どのような意識をもっているかについて、5月に高学年分科会の所属校の5、6年生にその実態調査を行った。(高学年分科会所属校 5年 2クラス、6年 4クラス 計174名)

その結果をふまえ、振り返りカードや自己評価、相互評価の共有を工夫することによって、児童の意識がどう変わったか、10月に同じ項目でアンケートを行った。

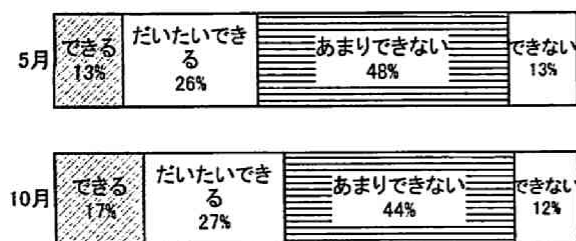
1. 学級会は好きですか



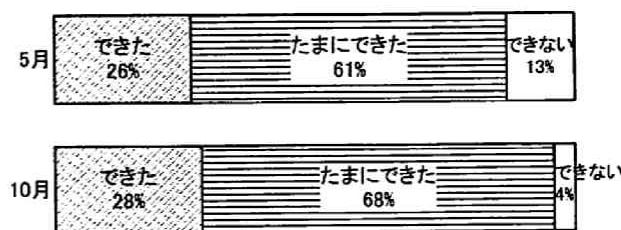
2. 学級会するとき、自分の意見をもって参加していますか？



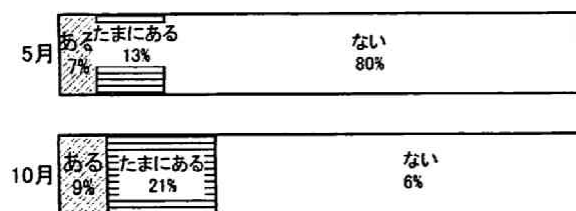
3. 自分の意見をすすんでいえますか？



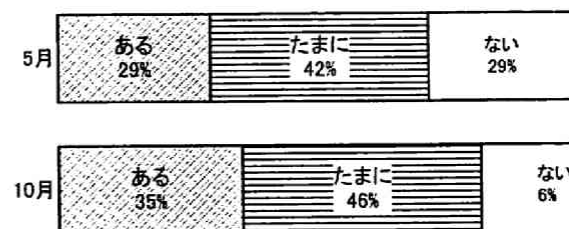
4. 友達の良さをみつけることができましたか？



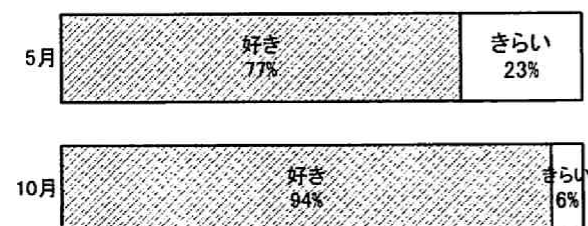
5. 自分の考えがみんなの役に立ったことがあると思いますか？



6. 友達の意見を聞いて、自分の考えがより良い方向に変わったことはありませんか？



7. 学級活動は好きですか？



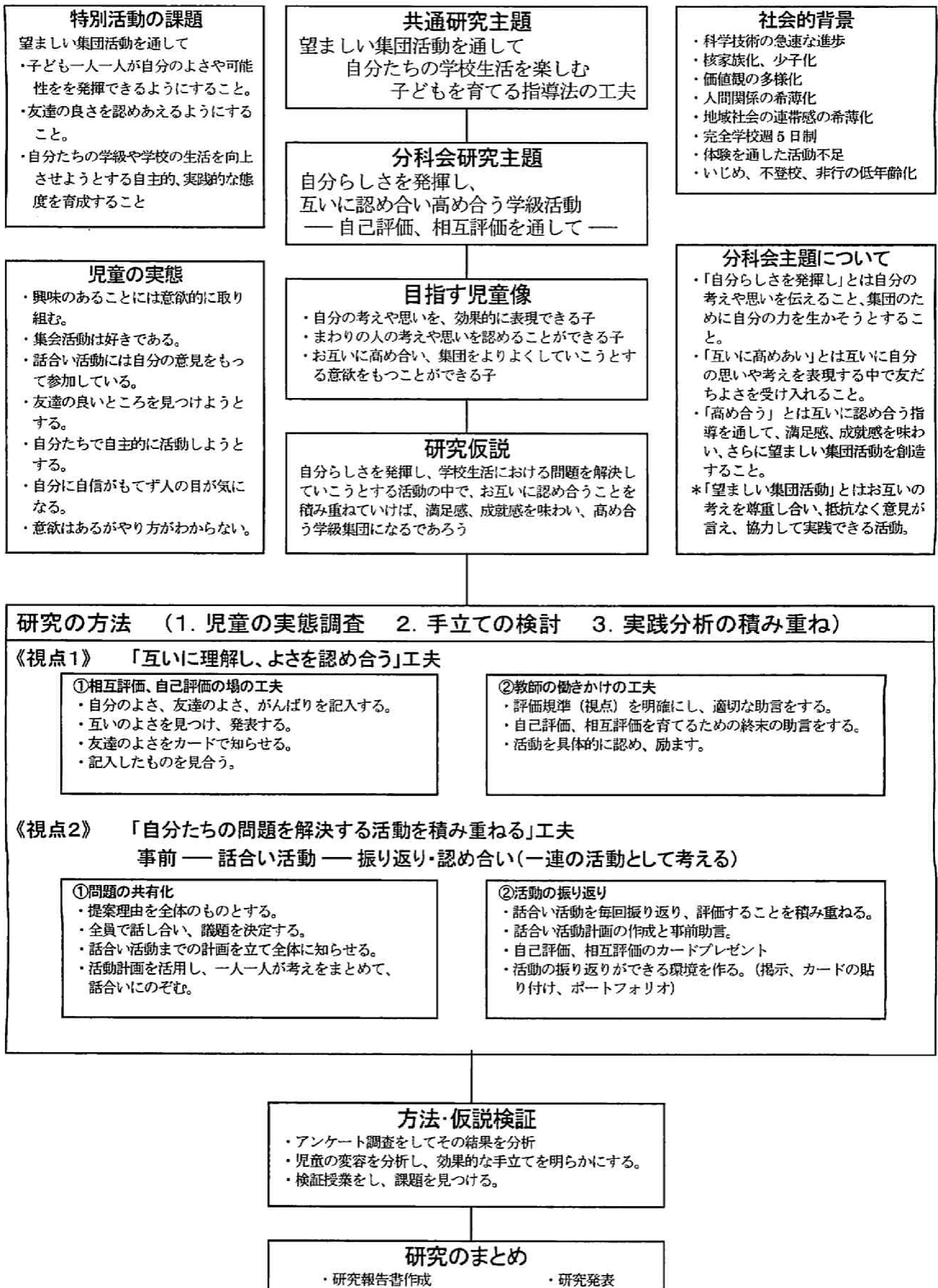
対象者：高学年ブロック所属校の5、6年生  
 実施時期：5月、10月  
 調査数：174名

【考察】

5月のアンケートの結果から、半数以上の児童は、係活動や集会活動を含む学級活動全体に対しては、好きである、という結果になった。しかし、話し合いの場面になると、意見はもっているがなかなか言えない、自信がない、などの実態も見えてきた。

そこで、高学年分科会では、個々の児童が自信をもって話し合いに参加できるように、振り返りカードに事前に自分の考えを書き込む欄を設け、発言のポイントや、司会グループの進め方のポイントを教室に掲示した。そして発言に、迷いや不安なく話し合えるように工夫した。また、友達に目を向けさせる工夫として、振り返りカードに「今日のピカイチ」を設け、お互いの良いところを認め合う機会を増やした。さらに、担任が全員の自己評価、相互評価を一覧にして配り、お互いの考えや、友だちへの評価をいつでも見ることができるよう工夫した。その結果、10月ほどの項目も「好き」や「できる」が増えた。

### 3 研究構想図



#### 4 実践を通して

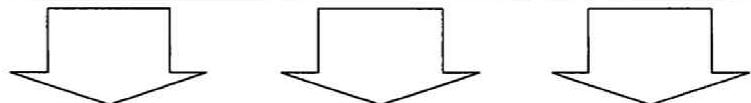
☆高学年部会では、研究の手だてとして、①互いに理解し、よさを認め合う工夫②自分たちの問題を解決する活動を積み重ねる工夫の2つを視点にして、研究に取り組んできました。1年間の活動を通して児童一人一人の変容を見てきたが、ここでは、3人の観察対象児を挙げ、年度初めの6月の学級活動内容(1)における児童の様子と12月の学級活動内容(1)における様子を挙げ、具体的な教師の働きかけとその変容を記した。

☆観察対象児の5月の第一回の学級会での様子は以下の通りである。

- A児・・・自分の意見を話し合い活動の中でなかなかもつことができず、学級会に参加している。
- B児・・・意見をもって話し合い活動に参加しているが、自信をもってクラスの友達に働きかけるようなことは苦手。
- C児・・・意見をもって話し合い活動に参加している。話し合いの全体の流れを見ていくことができる。

活動内容	話し合い活動における児童の変容		
	A児	B児	C児
6月 「6～2～島！1年生となかよしランドの計画を立てよう」 (1年生との交流会の計画を立てよう)  <話し合った内容> ○どんな会にしたいか。 ○どんなコーナーを作るか。 ○コーナーの分担    	<話し合い活動での様子>		
	学級活動カードには、意見を書けていたが、話し合いの中では意見を言えなかった。友達の意見に頷くなどの姿が見られた。	事前に学級会カードに意見をまとめていた。その中から意見を言っていた。  「ぼくは、〇〇さんの意見に賛成です。理由は、前に1年生にやっであげたら、喜んでくれたからです。」	友達の意見を聞きながら、頷いたりしていた。二つの意見をまとめるような意見を出した。「〇〇の意見と××の意見は、同じコーナーとしてできて、二つとも一緒にやったら、1年生がすごく喜んでくれそうだから、そうしたらよいのではないですか？」
	<活動の中、または終末での助言>		
	友達の話によく頷きながら、話し合いに参加していましたね。	自分の意見を自信をもってはっきりと言えましたね。	二つの考えを生かしながら、まとめる意見を出せたのが、すばらしかったです。
	<学級活動カード(活動の振り返り)>=自己評価		
	自分の意見は、しっかりと考えていたけれど、みんなの前で発表するのは、とても難しかった。	自分の考えをまとめたから、意見を出すことはできたけれど、みんなの意見がまとまる時にもっと意見を言えばよかった。	いい話し合いになったと思う。ただ、いろんな人がもっと発言した方がいいと思う。自分の意見もちゃんと伝えていきたい。
	<学級活動カード(今日のピカイチ)>=相互評価		
	〇〇さん ・自分の考えがはっきりしていて、1年生のことをよく考えていたから。何回も意見を出していた。	〇〇さん ・司会を助けていたり、意見をたくさん言っていたので。	〇〇さんと〇〇さん ・いつも発言をあまりしないけれど、今日はよく発言していたから。
	<学級活動カードへの教師の一言>		
	考えをもって話し合いに参加しようとするのが大切です。人のことを考えた意見をすぐに見つけられることがすばらしいです。	考えをまとめたからこそ、意見をしっかりとみんなに伝えられましたね。書いていることにこだわらずに発言してみるといいよ。	全体のことを考えた振り返りをするのができたね。話し合いを盛り上げるためには、どんなことをしていったらいいだろう。
<友達からの評価>=相互評価			
今回、友達からの評価はなかった。	最初から、たくさん意見を言っていてとてもすごいと思いました。など	まとめる意見は、とても説得力があつてよかったです。など	
全体的な所感 どんなコーナーを作るかで、いろいろと意見が出された。たくさんのコーナーが出されたが、それぞれの考えの中には、似通った意見もあり、途中から、それをまとめていき、コーナーを絞っていく話し合いとなった。			

その後、9月・10月・11月に3度、話し合い活動における児童の変容を記録した。



活動内容	話し合い活動における児童の変容		
	A児	B児	C児
<p>12月 「卒業文集のクラスページの計画を立てよう」</p> <p>&lt;話し合った内容&gt; ○どんなクラスページにしたいか。 ○どんなコーナーを作るか。</p>  	<話し合い活動での様子>		
	カードにまとめてきたことを何回か発言することができていた。「将来のみんなが見たときにニコニコと思わせるようなクラスページにしたいです。」	カードにコーナーについての意見をまとめることはできていなかったが、友達の意見に賛成や反対の意見を多く出していた。	話し合いの流れを見ながら、意見を多く出すことができた。「何でもベスト5については、クラスの全員の名前が必ずしも入るとは言えないので、やめた方がよいのではないですか。」
	<活動中、または終了での助言>		
	理由だけでなく、自分の気持ちがしっかりとこもった意見を言うことができたね。	友達の意見をよく聞きながら、どうしたらよりよいものができあがるかを、よく考えた意見が言えましたね。	楽しいという考えだけでなく、クラスの全員のことを第一に考えた意見を言っていましたね。
	<学級活動カード(活動の振り返り)>=自己評価		
	クラスページは、やっぱりクラスのよさが伝わるようなものにした。楽しいページになりそうで、今日の話し合いはよかった。	友達の意見を聞いていたら、どんなコーナーを作ればいいのか分かってきたし、アイデアも浮かんできた。いい話し合いになっていたと思う。	みんながたくさん意見を言っていて、楽しかった。きっと、クラスページはクラスのよさがでて、いいページになると思った。
<学級活動カード(今日のピカイチ)>=相互評価			
○○さん ・司会としてみんなの意見をまとめようとしていたし、堂々としていた。	○○さんと○○さん ・みんなが考えていた意見をもっといいものにしようとしていた。 ○○さん ・今までの司会がやってくれたことをすごく生かしていた。	○○さん ・人の意見を聞くときにいつもうなずいてくれるので、すごく話をしやすかった。 ○○さん ・賛成の意見を言うタイミングがすごくよかった。	
<学級活動カードへの教師の一言>			
「クラスのみんながページを見るとニコニコとするようなページに」という意見はとても素敵でした。きっとそうなると思います。	アイデアをたくさん出すことができたね。クラスの歴史をそれぞれが書いていくという意見もみんな大賛成でした。	みんなの心が一つになっていれば、クラスページもそんな気持ちのあふれたページになりますね。	
全体的な所感	<友達からの評価>=相互評価		
コーナーとして全体で出された意見は、まとめていく必要がそれほどなかったため、各自のアイデアあふれる意見がたくさん出された。	意見を聞いて、将来の自分たちが見て喜べるようなページにしたいと思いました。 など	みんなの意見に賛成する意見をたくさん出せていてすばらしかったです。	いつも、みんなの話し合いの流れを見ていて、ポイントの時に意見を言ってくれるのですごい。 など

<成果>

①互いに理解し、よさを認め合う工夫を通して

- ・活動後の振り返りを共有することにより、友達が自分のことを認めていることに気付くことができ、活動を楽しむに、自信をもって活動できるようになってきた。
- ・自分の考えや思いに自信をもち、意欲的に活動していこうとする態度が見られるようになってきた。

②自分たちの問題を解決する活動を積み重ねる工夫を通して

- ・児童の自己評価と相互評価の変化をしっかりと見取り、児童へと返し、次の活動に生かしていくという一連の流れを構築したことにより、次はこうしていきたいという児童それぞれの話し合い活動における目標を明確化することができた。
- ・児童は、自分の成長に気付くことができ、自信をもって活動に参加できるようになってきた。

<課題>

- 記述による振り返りや実際の話し合い活動の中で自分の気持ちを表現しきれなかった児童に対する見取り方や助言の工夫については、これからも研究を進めていきたい。
- 話し合い活動だけではなく、実践の活動の中での児童の見取りや助言の仕方についても、さらに深めていきたい。

## V 児童会分科会

### 分科会主題

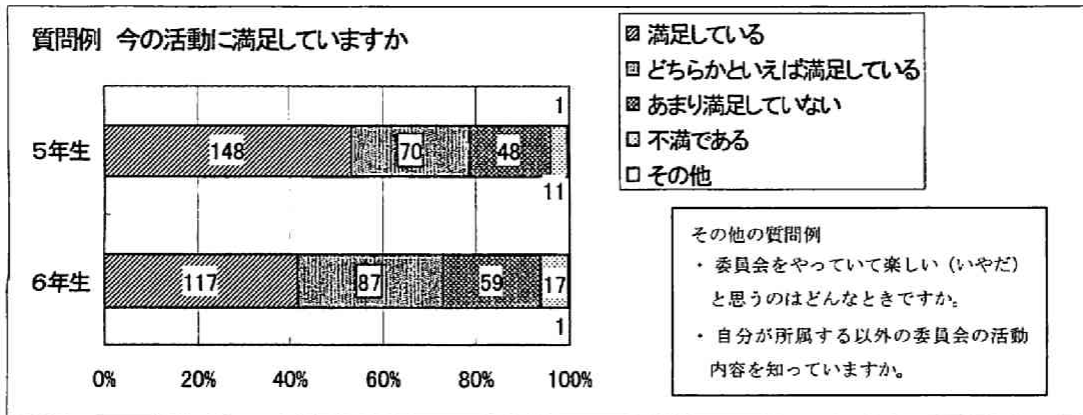
#### 自ら進んで取り組み、学校の一員としての満足感がもてる児童会活動

##### 1 主題設定の理由

児童会活動のねらいは、「児童が、自分たちの学校生活を向上させようとする意図の下に、学校生活に関する諸問題を解決する活動及び学校内の自分たちの仕事を分担処理する活動を自発的、自治的に行うことによって、自主性と社会性を養い、個性の伸長を図る。」(小学校学習指導要領解説;特別活動編 平成11年5月 文部省)ことである。

しかし、現状では、自分たちの学校生活を充実、向上させようとする児童の意識は薄く、教師の指示待ちになっている傾向がある。また、自分の所属する委員会以外の関心が薄く、児童が互いに活動を話題にすることも少ない。さらに、教師自身も委員会活動を当番活動にしてしまっている傾向も否定できない状況と言える。

そこで、より詳しく児童の委員会活動での実態をつかむために、5、6年児童を対象に、質問紙による実態調査を行った。(対象:5.6年児童 559名、実施時期:平成14年6月)



その結果、以下のことを課題としてとらえた。

- ・5年生から6年生になると委員会に対する必要感が薄れてしまうこと。
- ・3割近くの子供が、今の委員会活動に満足していないこと。
- ・休み時間や放課後を使っの活動に不満が多いこと。
- ・各委員会で活動していることが、友達や教師に十分評価されていないこと。

私たちは、上記の課題を解決するために、児童が活動をとおして得る満足感に着目した。児童が満足感を得るためには、児童の思いや願いをいかしつつ、適度な難しさのある課題に取り組ませることが必要である。また、活動時間に関する不満は、児童のアイデアを生かし、夢中になれる活動をしていくことで解消できると考えた。実態調査からは、互いに協力して取り組むことが児童の満足感を高める大きな要素であることがわかった。活動をとおして得た満足感こそが、次への活動意欲を高め、児童の自主的な活動を促すものとなる。さらに、満足感を味わう経験を積むことによって、児童は自分たちの学校生活をより豊かで楽しいものにしていこうとする意欲が高まり、学校の一員としての自覚が深まってくると考えた。

そこで、本分科会では主題を、「自ら進んで取り組み、学校の一員としての満足感がもてる児童会活動」と設定した。

## 2 研究構想図

望ましい集団活動を通して

自分たちの学校生活を楽しむ子どもを育てる指導法の工夫

児童の実態

- ・しっかりやろうとする活動意欲がある。
- ・工夫した活動が少しずつ増えてきた。
- ・集会活動等を楽しんで参加する。
- ・自発的・自治的な活動が少ない。
- ・活動の時間が少ない。
- ・児童会活動への関心が薄い。
- ・異学年との人間関係がうまくつくれない。

教師の願い

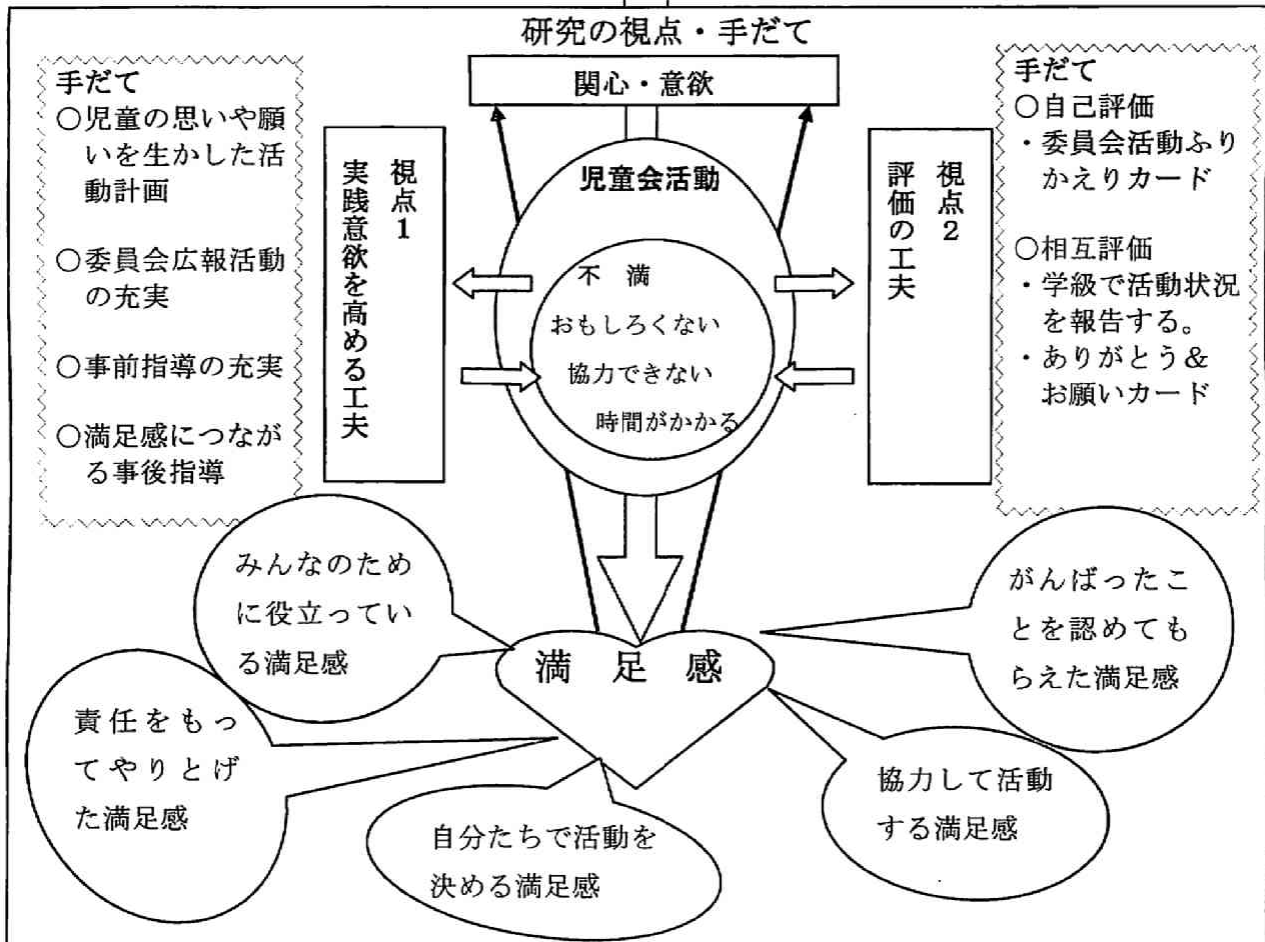
- ・所属している児童会活動だけでなく他の活動内容にも関心をもってほしい。
- ・満足感・達成感をもってほしい。
- ・工夫した活動にしてほしい。
- ・学校生活が充実するように自ら創造してほしい。
- ・楽しみながら活動してほしい。

分科会テーマ（児童会活動）

自ら進んで取り組み、学校の一員としての満足感がもてる児童会活動

仮説

児童会活動における実践意欲を高める指導法を工夫し、児童が充実感をもつように評価を工夫していけば、自ら進んで取り組み、学校の一員としての満足感がもてる児童会活動となるであろう。



### 3 研究内容と実践事例

#### 視点1 実践意欲を高める工夫

##### (1) 児童の思いや願いを生かした活動

- ・児童のアイデアを生かした活動や児童が楽しめる活動を取り入れる。

##### 【児童のアイデア例】

校内清掃→南成ピカ小とタイトルを決めてペア学年で清掃場所を分担し実施した。

ユニセフ活動→ユニセフについてインターネットで調べたことを掲示し、さらに集会で劇化して呼びかけた。

低学年からの要望→校庭の木の名前を知りたいと要望から、代表委員会が中心となり、自然科学クラブが調査し、工作クラブで名札を作り、代表委員会が設置した。

ニュース番組づくり→各学年の活動、学校全体の活動をよりよく知るために学校生活の様子をテレビニュース形式でレポートし、お昼の放送で流した。

- ・年間の見通しを立てた上で児童のアイデアを生かす柔軟な年間計画にする。

決まった活動以外に今年度の委員が考えた活動をする枠を開けておく。

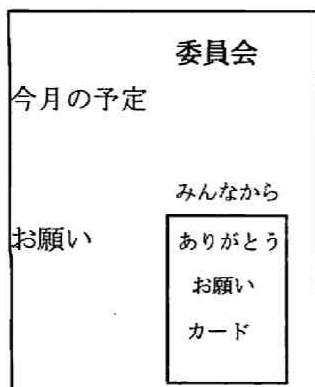
##### 【放送委員会の例】

4月	放送委員会の年間の仕事を知る。	7月	活動を決める。 大塚台ニュース(ビデオ)をつくろう。
5月	校内放送を行う。	9月	今年度の委員が考えた活動 例 テレビ放送
6月	常時活動のアイデアを出し合う。		
		10月	例 テレビ放送
		11月	・30人31脚インタビュー
		12月	・秋の味覚(栄養士の話)
		1月	・展覧会共同製作レポート
		2月	・さようなら大塚台小
		3月	次年度に引き継ぐ

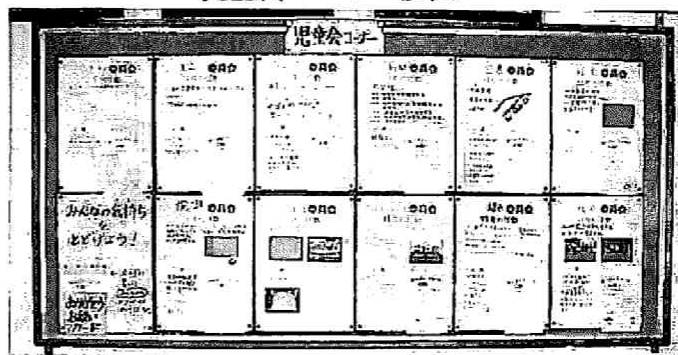


##### (2) 委員会広報活動の充実

- ・委員会の活動内容や委員会からのお願いを掲示し全校に知らせる。(月ごとに実施)



##### 児童会コーナー設置



- ・全校児童の目に触れる機会が多い場所に設置する。
- ・児童会コーナーの管理や運営は、特活主任が行う。(次年度の引き継ぎを忘れないように心がける。)



### (3) 事前指導の充実

- ・児童が見通しをもって、自発的、自治的に活動できるように、委員会の進め方、活動内容の確認などの打ち合わせを行う。
- ・打ち合わせは、中休み、昼休み、放課後など利用して適宜行う。

時間確保は難しいが、自らやろうとする意欲を引き出す指導を心がける。

- ・やることを強制しない。
- ・ほめたり励ましたりする。
- ・活動の見通しをもたせる助言を工夫する。

### (4) 満足感につながる事後指導

- ・児童は、教師にほめてもらうことを励みとしている。そのため日ごろから児童の活動状況を把握して言葉かけをする。(ふりかえりカードにコメントを書く)

#### 視点2 評価の工夫

##### (1) 自己評価

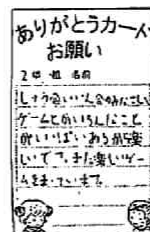
- ・委員会活動ふりかえりカードを作成し視点を決めて自己評価する。

ふりかえる意に色をぬりましょう  
できた…青 ふつう…黄色 もう少し…赤

できた	やりとげた	感想や反省	サイン
😊	😊😊	たのしみ集金の日少し速うのがおろくなりましたから、監を上げようと思っただ。	😊😊😊😊
😊	😊😊	教室でどうも人がこみだすの事をやるときうそをいってあげようと思っただ。	😊😊😊😊
😊	😊😊	-----	-----

##### (2) 相互評価

- ・月例の委員会活動後に学級において活動状況を報告しあう。(朝の会等)
- ・他の委員会の活動について感想を発表しあう。(帰りの会等)
- ・ありがとう&お願いカード(全校児童からの言葉カード・児童会コーナーに設置)でみんなの声を聞く。



## 4 実践を通して

### <成果>

- ・活動内容に児童のアイデアを生かすことにより、満足感が高まり、自ら進んで委員会活動に取り組むようになった。
- ・ありがとう・お願いカードでみんなの声が集まり、自分たちの活動が認められたことにより満足感が得られ、メンバーで協力して、自分の責任を果たそうとする気持ちが強くなった。
- ・児童会コーナーをつくることにより、全校児童に委員会活動の様子がわかるようになった。
- ・ふりかえりカードを自己評価に活用することにより、児童が自分の活動を振り返る視点をもち自分のよさに気づき、課題を克服しようとする姿勢が出てきた。
- ・教師もふりかえりカードを活用することで、児童一人一人の思いや願い、活動状況が今までより、具体的に把握できるようになった。
- ・教師が、児童の自己評価、相互評価に対し、進んで活動したこと、友達を認める発言や行動ができたことなどを評価することにより、児童にはしだいに自信をもって活動できるようになった。

### <課題>

- ・委員会ごとの活動の様子をビデオや写真に残し、児童がいつでも振り返ることができるようにしていく。
- ・児童会コーナーやふりかえりカードを継続し活性化するように、学級との連携を図っていく。

## VI 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

本部会では、「望ましい集団活動を通して自分たちの学校生活を楽しむ子どもを育てる指導法の工夫」を研究主題として研究を進めてきた。「自分たちの学校生活を楽しむ」を「友達とかかわりながら生き生きと活動すること」ととらえ、各分科会ごとに、指導の手だてを探り検証してきた。そこから明らかになってきたことを以下にまとめる。

- (1) 自己評価や相互評価をする場を児童の一連の活動の中に位置づけ、積み重ねることにより、児童に自主的、実践的な態度が育っていく。

児童が活動を振り返り、評価することを毎回積み重ねてきた。また、その中に表れた気づきを児童が共有化できるような手だてを工夫してきた。その結果、児童は自信をもち、自分たちの力で問題を解決していこうという意欲が高まり、徐々にではあるが自主的、実践的な態度が育ってきた。

- (2) 教師が活動の終末や活動後の指導を工夫することにより、児童は自信や満足感を得ることができ、次の活動への意欲が高まる。

児童が活動に満足感や達成感を感じ、次の活動への意欲が高まるようにするために、終末の指導や事後指導の工夫を試みてきた。終末の指導に役立てるため助言の例を整理して分類したり、評価基準（視点）を明確にしたりして助言の工夫に役立てた。また、活動後の指導として、振り返りカードへのコメントの工夫や、気づきを共有し次の活動へ生かすための手だての工夫をしてきた。

これらのことにより、児童にとって集団活動の課題がより明らかになった。また、教師にとっても児童の育ちをよりの確に捉えようとする目が養われ、児童理解が深まった。

- (3) 児童が友達と豊かにかかわれるようにするための手だてを教師が集団の実態に応じて工夫することにより、児童の中に互いのよさを見つける目が育つ。

児童相互の豊かなかかわり合いを生み出す場を教師が意図的に設け、集団の実態によって、「気づきカード（低学年）」、「メッセージカード（中学年）」、「今日のびかいちカード（高学年）」などのように工夫していくことにより、互いのよさを見つめる目が確実に育っていった。また、このことは、児童が互いの気づきを生かしながら、よりよい集団に高めていこうとする実践的な態度にもつながり、「学校生活を楽しむ子ども」が増えた。

### 2 今後の課題

- (1) 児童の自主的、実践的な態度をさらに高めるための、評価の在り方の研究。  
(2) 発達段階や集団の実態に応じた、振り返りの方法と生かし方の研究。  
(3) 児童が課題に気付いたり、解決方法を考えたりするための教師の適切な助言の研究。